

放射性物質モニタリング調査

福島県内水面水産試験場 調査部

1 部門名

水産業—内水面(増養殖)—内水面漁業、その他の魚種(内水面)

2 担当者

榎本昌宏

3 要旨

放射性物質の本県農林水産物への影響把握と出荷・摂取制限を受けた農林水産物の制限解除、並びに本県農林水産物の安全性の確認と消費者に対する正確な情報の提供を目的として行う。

- (1) 県内の各内水面漁業協同組合の協力を得て、河川湖沼で漁協が採捕した魚類等を回収し、検査機関に搬入
- (2) 平成23年12月末現在、河川湖沼の魚類等の検査件数は、19種290検体であった。
- (3) 放射線の空間線量が高い地域の河川湖沼の放射線が高く、そこでの魚類等の放射線量が高いことが伺われた(図1、図2、図3)
- (4) 検査の結果、県内の広い範囲で、河川から放射性セシウムが検出され、特に浜通り北部、中通り北部で採捕
- (5) 放射性ヨウ素は5月、6月の検査で一部の検体から検出されたが、その値は最大で24Bq/kgで、7月以降の検査では検出されない。
- (6) 河川の魚類の放射線量は総じて減少傾向である(図4)。
- (7) 湖沼の魚類の放射線量は横ばい傾向である(図5)。

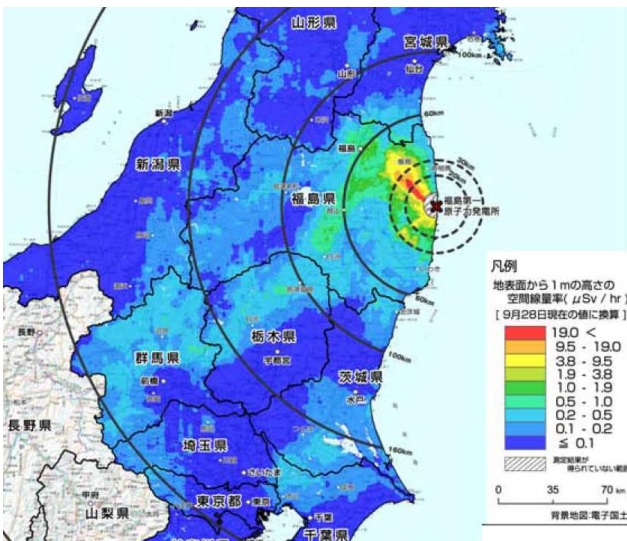


図1 放射性セシウムの空間線

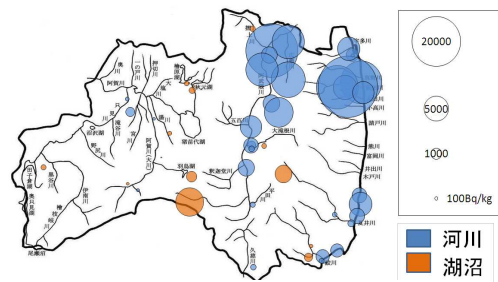


図2 河川湖沼の底泥の放射

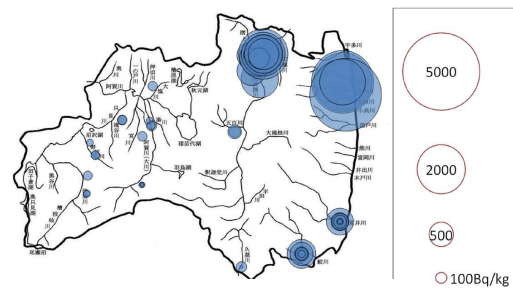


図3 アユから検出された放

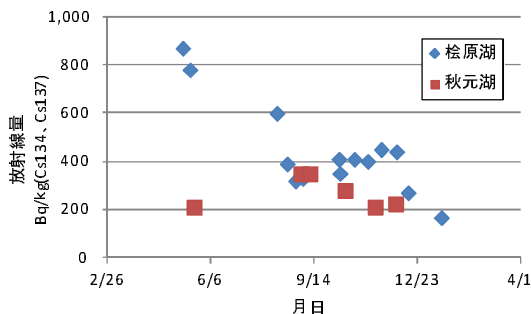


図4 桧原湖、秋元湖におけるワカサギの放射線量(放射性セシウム)の推移

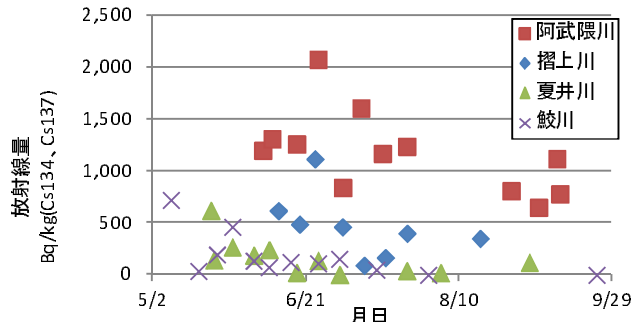


図5 主な河川におけるアユの放射線量(放射性セシウム)の推移

4 主な参考文献・資料

- (1)